

やさしい

せいかつの にほんご ～はなしましょう！～

【教え方の手引き】



こうえきざいだんほうじん おおがきこくさいこうりゅうきょうかい
公益財団法人 大垣国際交流協会

この学習教材は、平成30年度 文化庁「生活者としての外国人」のための
日本語教育事業 –地域日本語教育実践プログラム（A）–
を公益財団法人大垣国際交流協会が受託して実施した
「地域日本語力はぐくみ事業 ～外国人から支援ボランティアまで～」
の教材作成事業として作成したものです。

やさしい

せいかつの にほんご ～はなしましょう！～ 【教え方の手引き】



本書は、平成 29 年度に作成したテキスト「やさしい せいかつの にほんご ～はなしましょう！～」を用いて日本語の学習支援をする方が、この手引きを参考にすることにより効果的な学習支援ができることを目的として作成したものです。中でも、特にマンツーマン方式での日本語学習支援をイメージしています。

しかしながら、学習方法、支援方法は多種多様であり、本書の構成に沿って行うことがすべての学習者に有益であるとは言えませんが、一つの進め方の案としてここに提示させていただきました。

また、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」(文化審議会国語分科会)には、「日本語学習支援者に望まれる資質・能力」の態度として「学習者自らが学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする」ことが挙げられています。この手引きにおいても「教える」のではなく、「学習者の学びを支援する」ことを意識し、学習者が多く発話できるように進め方にしました。

本書を使用することにより、学習者の日本語でのコミュニケーション能力が向上し、地域社会に溶け込んで暮らしていける一助になればと願っています。

もくじ

本書の使い方	・・・1
① 自己紹介をする	・・・3
1 自己紹介をする	
2 国、仕事、日本へ来た理由を話す	
② 市役所／国際交流協会	・・・9
1 市役所の受付で	
2 市役所で手続きをする	
3 電話をして通訳をお願いする	
4 日本語学習について聞く	
③ 買い物をする	・・・15
1 お店の人に聞く	
2 レストランに行く	
3 買い物をする	
4 ちらしを見る	
④ 乗り物に乗る(電車・バス)	・・・25
1 電車に乗る	
2 バスに乗る	
⑤ 学校へ通う	・・・31
1 学校に入れる手続きをする	
2 学校の行事について聞く	
3 学校へ欠席・遅刻の電話をする	
4 保育園に入れる手続きをする	

⑥ 病院へ行く . . . 41

- 1 病院を探す
- 2 病院へ行く
- 3 医者診察を受ける
- 4 薬をもらう

⑦ 110番・119番に電話する . . . 53

- 1 110番に電話する
- 2 119番に電話する

⑧ 災害(台風・大雨・地震)のとき . . . 59

- 1 台風の時
- 2 大雨の時
- 3 地震の時

⑨ 道を聞く . . . 67

- 1 人に道を聞く

⑩ 仕事をする . . . 71

- 1 仕事を探す
- 2 会社に電話して休むと伝える

⑪ ごみを出す . . . 77

- 1 ごみの捨て方を聞く

【本書の使い方】

各課の構成

①その会話を学ぶことでできる行動目標

④会話

②トピックのイメージ作り

⑤はなしましょう！

③会話のことば

⑥知っているといいです！

※必ずしもこの順番でなくてもよく、課の内容によっては「はなしましょう！」や「知っているといいです！」から始めるとよい場合もある。

①その会話を学ぶことでできる行動目標

- ・それぞれの会話の内容やことばを学ぶことで、日常生活でどんなことができるようになるかを示しています。

②トピックのイメージ作り

- ・内容に入る前に、これから何をするのか学習者に大まかなイメージを作ってもらうものです。
- ・内容を想起させるような絵や写真を見たり、その課のテーマに関する質問したりして、学習者がこれから何をするのか意識できるようにします。

③会話のことば

- ・会話文に出てくることばと訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）。
※会話文を読む前にことばの意味や発音を確認しておくといいです。
- ・支援者がことばを読み上げ、学習者は訳で意味を確認しながら後について言う。
- ・反対語など関連する語彙が他にないか考えたり、調べたりして語彙を増やすことができます
- ・[] で囲ってある動詞は辞書形（辞書に載っている形）です。

④会話

- ・各テーマに関する会話文。その課の目標が達成できるような内容になっています。

〈会話の進め方〉

- ①【音と意味を結びつける】まず支援者が会話文を読み、学習者は会話文の訳を見ながら、理解する。
- ②【文字と音を結びつける】次に支援者が再度会話文を読み、学習者は会話文を見ながら、後について言う。
※ひらがなが読めない場合、ローマ字を参考にする。
※学習者の母語によってはローマ字の発音が日本語の実際の発音とは異なってしまう場合があるので、「ひらがな・カタカナ・ローマ字対応表」(テキストの巻頭)で発音の確認をしておく。

例

 : ji, gi をスペイン語圏では「ひ」と発音するが、日本語では「じ」「ぎ」となることを確認しておく。
- ③会話文の内容が理解できているか、内容に関する質問をする。
- ④会話文の登場人物になって話す練習をする。

⑤はなしましょう！

- ・会話文の中で鍵となる文。各課の目標を達成するためにここに挙げられている文が実際に使えるようになるとうい事です。
- ・部分を入れ替え、口頭で話す練習をします。
- ・入れ替えの語彙以外にも学習者の状況に合わせて支援者が語彙を入れ、練習するとよいです。

⑥知っているといいです！

- ・情報として知っているといい事柄について掲載しました。

① 自己紹介をする



1 自己紹介をする

目標

- ①日本語であいさつすることができる。
- ②自分の名前、所属、身分などの情報を伝える。
- ③家族の呼称を知る。家族を紹介する。

トピックのイメージ作り（あいさつのことば）

- ・テキスト P.1 「あいさつのことば」を入れる。
友だち・家族などの親しい関係か、あるいはそれ以外の関係かによって、あいさつのことばが異なる場合があることを伝える。
- ・支援者と学習者で関係を仮に決め、その関係に合ったあいさつをする。
- ・初めて会う人に使う「はじめまして」の後に「私は（名前）です」と名前を入れ、そのあとに「よろしくお願いします」というあいさつを入れる。

はなしましょう！ 1)

P.22

1) わたし は、 鈴木アントニオ です。

- ・ここに出てくる名前はテキストの登場人物の名前である。
(テキスト P.18 「主な登場人物」を参照)
- ・「わたしは です」に自分の名前を入れて自己紹介をする。
- ・③のように男性の場合「ぼくは です」の言い方もあるが、相手が目上の場合は「わたし」のほうが良い。
- ・もし学習者が複数いれば「こちらは さんです」のように、互いの名前を紹介する。
[写真を使って家族を紹介する]
- ・テキスト P.17 「家族の呼び方」を見て、
「こちらは父です」のように写真を見せながら家族を紹介する。



2) 妻 の 王美麗 です。

- ・ 家族の写真を見せながら「こちらは妻の（名前）です」
のように家族の名前も紹介する。

わたし は 国際交流協会 の ボランティア です。

- ・ もし学習者に勤め先、学校など所属先があれば「わたしは（所属先の名称）
の（身分）です」の言い方を練習する。
- ・ 「わたし」を家族に置き換えて家族の紹介をする。

会話のことば

P.21

- ・ 支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・ 学習者に余裕があるようなら、「昨日」以外にも「今日」「明日」のことばを
入れる。

会話

P.19-20

- ・ 支援者が会話文を読み、学習者は P. 20 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、
ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・ 以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・ 会話文の内容を確認する。

支援者：・（絵を見せながら）「これ、どうぞ」の「これ」は何ですか

・ 引っ越します。プレゼントをあげます。

（例えば、お菓子、飲み物、タオルです。）

・ 学習者さんの国はどうですか。

- ・ ロールプレイ（役割練習）

⇒引っ越してきた役と隣の人役になり、話す練習。自分の名前や、同居する
家族やルームメイトがいればその人の名前を入れて、実際の状況に近い
文にして会話する。



学習目標を確認して終了

2 国、仕事、日本へ来た理由を話す

目標

- ①どこから来たか伝えることができる。
- ②日本で何をしているか伝えることができる。
- ③日本へ来た理由を話すことができる。

トピックのイメージ作り

- ・世界地図を見せて、日本語で、あるいは学習者の母語では、世界各国の国名を何と言うか伝え合う。

はなしましょう！ 1)

P.27

1) A: お 国 は?

B: ブラジル です。

- ・「お」が前につくと、丁寧になる。(例: お+母さん、お+父さん)
(学習者に余裕があれば「ご+主人」「ご+家族」など「ご」も紹介)
- ・「お名前は?」「お仕事は?」など「お～は?」の形でできる質問も入れる。
(学習者に余裕があれば「ご家族は?」など「ご」を使った質問もしてみる)

はなしましょう！ 2)

P.28

2) A: どこから 来ましたか。

B: 中国 から 来ました。

- ・「どこから来ましたか」「中国から来ました」だけでなく、「中国のどこから来ましたか」「中国の〇〇から来ました」のように、出身地について詳しく尋ねることもできる。

はなしましょう！ 3)	P.28
3) A: 日本で 何を していますか。 B: 会社で 働いています。 ・職業を日本語では、動作の継続として「(動詞) て形+いる」を用いて表す。 (学習者に余裕があればテキスト P. 12 の動詞の活用表「て形」を参照する。) (教え方の手引き 2 課-2 にも「て形」の説明を記載している。) ・もし学習者が難しそうな様子であれば、必ずしも「~ている」を使う必要はない。 1) で練習した「お仕事は？」を質問として使い、「主婦(主夫)です」「研修生です」のように答える。 ・余裕のある学習者には「国で何をしていましたか」のように、「~ています」を「~ていました」に変え、国でしていたことを聞いてみるとよい。	
はなしましょう！ 4)	P.28
A: どうして 日本へ 来ましたか。 B: 日本に 興味が ありました。それで、日本へ 来ました。 ・学習者にとって難しい表現もあるが、尋ねられる機会の多い質問なので、練習しておくとうい。	
会話のことば	P.25-26
・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。	
会話	P.23-24
・支援者が会話文を読み、学習者はテキスト P. 24 の訳(ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語)を見ながら音と意味を結びつけて理解する。 ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。 ・会話文の内容を確認する。 支援者: ・アントニオさんはどこから来ましたか。	

- ・ アントニオさんの奥さんのお国は？
 - ・ アントニオさんと奥さんはどこで会いましたか。
 - ・ アントニオさんは日本で何をしていますか。
 - ・ アントニオさんはどうして日本へ来ましたか。
- ・ ロールプレイ（役割練習）
- ⇒支援者が隣の人になり、引っ越してきた人（学習者）に国、仕事、日本へ来た理由について質問する。

学習目標を確認して終了



② 市役所／国際交流協会で

1 市役所の受付で



目標 ①市役所の受付でどの課へ行けばいいか尋ねることができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 29 の写真を見せながら
「どこですか。ここで何をしますか。」と質問する。



会話のことば

P.30

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・「昨日」以外にも「今日」「明日」のことばを入れる。

会話

P.29-30

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 29-30 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

支援者：・アントニオさんはいつ大垣へ引っ越してきましたか。
・アントニオさんは今どこですか。
・市役所のどこへ行きますか。

はなしましょう！

P.31

1) A：昨日 大垣へ 引っ越して きました。どこへ 行きますか。

B：窓口サービス課です。

- ・Bは市役所の受付の人。学習者の状況に応じてAの文を考える。
例えば「昨日、家族が日本へ来ました」「来週、国へ帰ります」など。
- ・会話文 P. 29 にある「すみません」「ありがとう」を入れて話す。

2 市役所で手続きをする

目標 ①手続きのときに言われた質問や指示を理解する。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 32 の写真を見せながら
「どこですか。ここで何をしますか。」と質問する。



会話のことば

P.33-34

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・「生年月日」は西暦以外に日本の元号で書くこともあるので、日本の元号で学習者の生年が何年かを伝える。

会話

P.32-33

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 32-33 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・支援者が会話文を読み、学習者は後について言う。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

支援者：・アントニアさんは何を書きますか。

はなしましょう！

P.34

1) **書いて** ください。

- ・学習者は、P. 34 で「～て／で ください」の意味を訳で確認する。
- ・「～て／で」の動詞の形を「て形」という。
- ・「書く」「待つ」「すわる」「入る」のて形を確認する。

【て形の作り方】テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ 1 の動詞（五段活用動詞）

辞書形⇒て形 （辞書形とは、辞書に載っている形）

「～う」「～つ」「～る」⇒「～って」

例「待つ」⇒「待って」

「すわる」⇒「すわって」

「入る」⇒「入って」

「～く」⇒「～いて」

例「書く」⇒「書いて」

○グループ2の動詞（上一段・下一段活用動詞）

「～る」⇒「～て」

例「食べる」⇒「食べて」

○グループ3の動詞（サ行・カ行変格活用動詞）

「する」⇒「して」

「くる」⇒「きて」

学習目標を確認して終了

3 電話をして通訳をお願いします

目標

①日本語で電話することができる。

②通訳をお願いすることができる。



トピックのイメージ作り

・テキスト P. 35 の電話をしている絵を見せる。

「日本語で電話をしますか」と質問する。

会話のことば

P.37

・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。

会話

P.35-36

・支援者が会話文を読み、学習者は P. 36 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。

・以下、『本書の使い方 (P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。

・会話文の内容を確認する。

- 支援者**：・アントニオさんは市役所から何をもらいましたか。
- ・アントニオさんはその書類の日本語がわかりますか。
 - ・どうして市役所に電話しましたか。
 - ・何語の通訳をお願いしますか。
 - ・今、通訳はいますか。
 - ・アントニオさんはもう一度電話しますか。

- ・ロールプレイ（役割練習）

⇒支援者が市役所の人になり、学習者は電話で通訳をお願いします。

- ・「電話をかける」

P. 11 に電話をかける（あるいは受ける）ときのフローチャートがある。このフローチャートを見ながら、電話をかける側と受ける側に交互になって練習。電話で話すときの表現を知る。

知っているといいです！

P.38

- ・ P. 38 に市役所、国際交流協会、市民病院など、ポルトガル語、中国語、英語の通訳がいる公共施設が紹介されている。
- ・ 支援者がそれぞれの施設の人になり、学習者は電話で通訳をお願いします。

学習目標を確認して終了

4 日本語学習について聞く

- 目標**
- ①日本語学習について尋ねることができる。
 - ②希望の学習方法や希望の学習時間・曜日を伝えることができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 39 の写真を見せる。
「二人は何をしますか」「どこですか」と質問する。



会話のことば

P.41-42

- ・支援者がことばを発音し、学習者は見て意味を確認しながら後について言う。
- ・テキスト P. 8 を参考に、「ひとり、ふたり・・・」の人数の数え方を確認。
- ・テキスト P. 10 を参考に、月曜日～日曜日まで曜日の言い方を確認。

会話

P.39-41

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 40-41 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・支援者が会話文を読み、学習者は後について言う。
- ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

支援者：・ここ（国際交流協会）で日本語の勉強ができますか。

- ・マンツーマンは何ですか。
- ・日本語教室は何人いますか。
- ・日本語教室は曜日と時間がありますか。
- ・アントニオさんはマンツーマンと日本語教室、どちらがいいですか。
- ・アントニオさんは日本語の勉強はいつがいいですか。
- ・アントニオさんは登録しますか。
- ・わからないことばの聞き返し
「マンツーマン？」のように、わからないことばがあるとき、そのことばを

繰り返して語尾を上げる言い方がある。会話文を読むときにここでの語尾の上げ方に注意し、聞き返しの練習をする。

はなしましょう！ 1)

P.43

1) A: **いつ** が いいですか。

B: **土曜日** が いいです。

・相手の希望を尋ねる。

①～⑤は「日本語を勉強します。いつがいいですか。」、⑥・⑦は「日本語を勉強します。マンツーマンと日本語教室があります。どちらがいいですか。」のように何についての希望を尋ねるのか伝えてから質問するとわかりやすい。

・他にも、「来週も日本語を勉強します。いつがいいですか」「一緒にごはんを食べましょう。いつがいいですか。」など、状況を設定し、相手の希望を尋ねる練習をする。

・「いつ」だけでなく、「どこ」「何」「誰」「何時」「どれ」「どちら」など、他の疑問詞（テキスト P. 3-5）も使って質問する。

学習目標を確認して終了

③ 買い物をする



1 お店の人に聞く

目標

- ① 買いたい物の売り場を尋ねることができる。
- ② 買いたい物の色やサイズを尋ねることができる。
- ③ 商品の名前について知る。
- ④ 色の言葉や模様の言葉を知る。理解する。
- ⑤ 着脱の言葉を理解し、試着の申し出ができる。

トピックのイメージ作り

- ・ 日本に来てから、何を買いましたか。どこで買いましたか。
など、買い物の経験を尋ねる。
- ・ [話せる学習者の場合] 日本での買い物で困った経験について話してもらってもよい。

語彙の導入

1) ～階のいい方。売り場のことば、商品のことば

P.49

- ・ 絵を見ながら、1 階、2 階…など階のいい方の確認。(10 階まで数えて確認。
テキスト P.8 参考)

- ・ 1 階の売り場のことばを確認。
それぞれ、何が売っているか。
絵を見て言う。
- ・ 2 階の売り場のことばを確認。
何が売っているか。絵を見て言う。

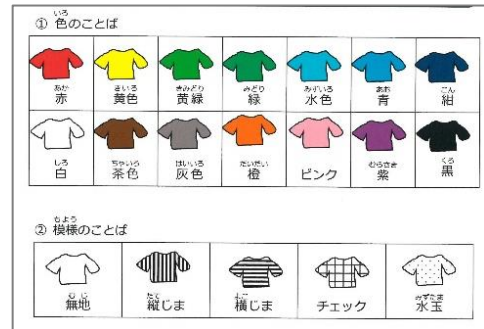


- ・ [余裕がある学習者の場合]

絵の他に、それぞれの売り場で売っている物を色々挙げてもらってもよい。
(例：文房具売り場には他に何が売っていますか、など、聞いて、語彙を広げていく。)

色の言葉、模様のことば

- ・色を見ながらことばを確認。
教室内のものや、自分の持ち物の色を
言ってみる。
同じ教室にいる学習者や支援者について、
「～色の服／靴／…の人は？」と
聞いてみる。



- 「赤色のペンを出してください。」など、持っているペンの色などで確認。
時間があれば、学習者の好きな色や、その理由について聞いてみる。
- ・模様を見ながらことばを確認。
学習者の服や支援者の服、靴などで上と同様にして確認。

会話のことば

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・[余裕がある学習者の場合]
デパートとスーパーなど、店の種類について話す。
- ・「着る」の他にも着脱に関係のある動詞を確認する。
- ・サイズ対照表を持参し、靴や子供の服について「～センチ」を使った言い方
を確認してもよい。

会話

- ・イラストを見ながら場面の確認をする。
- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 46-47 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

- 支援者**：・王さん買いたいものは何ですか。
- ・スーパーのどこに売っていますか。
 - ・誰の服が買いたいですか。どこで使いますか。
 - ・何色ですか。何センチですか。買いたいものはありましたか。

はなしましょう！ 1)	P.49
1) A : 子ども服 は どこですか。 B : 2 階 ですよ。 (上級者 : 階 の 売り場ですよ。) ・ A と B になって話す練習。 話しながら、売り場の言葉の確認をする。 ・ 大垣にある商業施設の地図や、店の売り場の図などを用意して、学習者が今、買いたいものを聞く、支援者がその売り場を教えるという練習をしてもよい。	
はなしましょう！ 2)	P.49
2) この 服 の 130 センチ は ありますか。 ・ 買いたい物の、色違いやサイズ違いについて店員に聞く練習。 ①～⑤の意味を確認しながら、代入練習をする。 ・ その後で、自分の実際のサイズ（靴、服など）や、今度買いたいかばん、服などの色、模様、大きさ…等をイメージしてもらい、店の人に聞く練習を入れる。 ・ 買いたい物のリストと自分の希望を書くような表を作って、話し合いながら埋めていき、その後に聞く練習をしてもよい。 ・ レベルの高い学習者の場合には、「この店には無いんですが、他の店からお取り寄せできますよ。」など、会話を発展させ、少し複雑な交渉の練習をしてみてもよい。	
はなしましょう！ 3)	P.50
3) これ 着て も いいですか。 ・ 着脱の動詞を確認。「着る」「はく」「かぶる」「する」のて形を確認する。	

【て形の作り方】テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ 1 の動詞（五段活用 of 動詞）

辞書形（辞書に載っている形）⇒て形

「～う」「～つ」「～る」⇒「～って」 例「かぶる」⇒「かぶって」

「～く」⇒「～いて」 「はく」⇒「はいて」

○グループ 2 の動詞（上一段・下一段活用 of 動詞）

「～る」⇒「～て」 例「着る」⇒「着て」

○グループ 3 の動詞（サ行・カ行変格活用 of 動詞）

「する」⇒「して」

「くる」⇒「きて」

- ・ V てもいいですか。の意味を確認後、練習。
- ・ 余裕がある学習者の場合には、「食べてもいいですか」、「飲んでもいいですか」、「座ってもいいですか」、など、他の場面で許可を求める練習を入れてもよい。
- ・ 学習者⇔支援者でやりとり。

学習目標を確認して終了

2 レストランに行く

目標

- ①店員のことばを理解し、応答、行動ができる。
- ②数え方（～人・～つ）について知り、使えるようになる。
- ③メニューの名前について知る。
- ④レストランで簡単な注文ができる。

トピックのイメージ作り

- ・最近、外食をしたか、レストランに行ったことがあるかについて話す。
できる学習者には外食の頻度や、よくいくお店について尋ねる。
- ・日本で好きな食べ物を聞く。
できる学習者の場合には、国の食べ物との違い、接客の違いなどを話題にしてもよい。

語彙の導入（「はなしましょう」の絵を使って）

メニューのことば、値段の言い方

P.56

- ・絵を見ながら、食べ物・飲み物の名前について確認。「定食」の説明など。
実際にファミレスなどのメニューを持参し、見せながら活動してもよい。
- ・値段の読み方について確認。わからなかった場合はテキスト P.7 の「数字」を見ながら確認。

会話のことば

P.53 -55

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・レストランの入り口で店員が聞くことを挙げてもらう。
- ・何名様ですか＝何人ですか。
P.8を見ながら「人」の言い方を「ひとり」～「じゅうにん」まで確認。
教室にいる人、家族の人数などに広げて、言ってもらってもよい。
- ・おたばこ、おきまりの「お」、ご注文の「ご」について丁寧な言い方であることを確認。
できる学習者であれば、注文の際などに聞いたことのある「お～」「ご～」の表現を挙げてもらう。
- ・「喫煙席・禁煙席」、「喫煙・禁煙」、「たばこを吸います・吸いません」を確

認。

- ・「ひとつ」から「とお」まで P.8 を見ながら確認。
- ・「繰り返します。」「以上でよろしいですか。」など店員の決まり文句を確認。
できる学習者であればその他、聞いたことがある表現を挙げてもらう。

会話

P.51-53

- ・イラストを見ながら場面の確認をする。
- ・支援者が会話文を読み、学習者は P.52-53 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉」を参照。
- ・会話文の表現を確認。
 - ・レストランに入りました。店員はいちばん初めに何を聞きますか。
 - ・次に何を聞きますか。
 - ・注文をするとき、アントニオさんは何と言いましたか。
 - ・[できる学習者の場合]「ご注文を繰り返します」はどういう意味ですか。
「どうして繰り返すと思いますか」など、聞く。
- ・会話の練習後、実際にレストランの店員、客役に分かれて、注文する練習をする。

はなしましょう！ 1)

P.56

1) お子様セットを2つとエビフライ定食を2つお願いします。

- ・メニューの言葉と「ひとつ」から「とお」までの言い方を確認する。
- ・上記文型を用いて、注文の練習をする。
- ・余裕がある学習者であれば、「～杯」「～個」など、レストランで使いそうな助数詞を入れてもよい。

学習目標を確認して終了

3 買い物をする

目標

- ①商品の名前を知る。
- ②値段の言い方を知り、理解する。
- ③商品の数え方について知り、使えるようになる。
- ④（対面販売で）商品を選び、買うことができる。
- ⑤商品の大きさ、形などについて言うことができる。

トピックのイメージ作り

- ・よく行くスーパーについて聞いてみる。どんなものをよく買うか。
よく行く理由は何か、など。
- ・できる学習者に対してはスーパーで売られている商品についての感想を聞く。国との値段の違い、味の違い、販売方法の違いなど。
- ・買い物で困ったことがあるか、経験を聞く。

はなしましょう！ 1)

P.60

1) A : この 魚 、 1匹 いくらですか。

B : 150 円です。

A : じゃあ 3匹 ください。

- ・問題の中に出てくる食べ物の名前について確認。
その後、「～本」、「～袋」、「～グラム」、「～個」の言い方を確認。(P.8 使用)
- ・値段の読み方を確認。
- ・実際に問題を解いて練習をする。

会話のことば

P.58-59

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・形容詞については、出てくるものだけでなく、反対の意味の言葉も提示しながら進めるとよい。(例：長い⇔短い、高い⇔安いなど)
- ・魚に関する言葉（種類など）の語彙を増やしてもよい。
- ・「いくらですか。」の確認。必要があれば、安くしてほしいときの表現なども

入れる。

会話

P.57-58

- ・イラストを見ながら場面の確認をする。
- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 57-58 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉」を参照。
- ・会話に出てくる形容詞が理解できたかどうかの確認をする。
 - ・例：・真鯛はどんな魚ですか。
 - ・さんまはどんな魚ですか。
 - ・真鯛は安いですか。
 - ・値段の言い方の確認として、「真鯛はいくらですか」「さんまはいくらですか」「王さんはいくら払いますか」などの質問をする。
- ・会話の練習後、実際に対面販売の店員と客になり、注文をする。
- ・ちらしを見ながらでもよい。

学習目標を確認して終了

4 ちらしを見る

目標

- ①商品の名前や数え方を知る。
- ②ちらしを見ながら内容について人に尋ねることができる。
- ③ちらしに使われる言葉を理解する。
- ④簡単な形容詞を使ってものの説明ができる。

トピックのイメージ作り

- ・ちらしを持参し、一緒に見ながら、知りたいことを聞き出す。
- ・ちらしを利用することがあるか（見て、値段を比較して買いに行く、など）尋ねる。



- ・できる学習者であれば、ちらしが読めるとよいこと（利点）について聞いてみる。

はなしましょう！ 1)

P.64

1) A : いつも どこで 野菜 を 買いますか。

B : ○○で 買います。

○○は 野菜 が 安い です。

・ A : いつも どこで 名詞 を 買いますか。

・「いつも」について、わからない場合はことば (P. 63) を示す。

どこで (名詞) を 動詞 ますか。助詞「で」に注意する。

・ 1) の選択肢に出てくるものの名前を確認。

・ ちらしに乗っていれば見ながら合わせる。

・ B : ○○で 買います。

○○は 名詞 が イA・ナA だ です。

・ 形容詞について確認 (P. 14-16)。「安い」、「新鮮」、「おいしい」以外にも理由になりそうなものを教えてもよい。(量が多い、種類が多い、あたらしい、きれい…など。)

・ 例文確認後、練習。

・ その後、支援者が持ってきたちらしなどを示しながら自分がどこで買うか、理由は何かを話す。

・ 学習者の住居の近くのスーパーなどを調べて、そこのちらしを持参してもよい。

・ 時間があれば、学習者の国に行った場合のおすすめのスーパー (お土産売り場など) について聞いてみる。

会話のことば

P.62-64

・ 支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。

・ 「1 本」、「1 パック」、「100 グラム」など、ちらしに出てくる助数詞を

確認する。	
会話	P.60-62
・場面の確認をする。 ・田中さんと王さんは道で話しています。 ・王さんが田中さんに何か聞いています。…など。 ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 61-62 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。 ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。 ・(近所の人など知っている人に) 何かを尋ねる時の切り出し方を確認。 ・聞き返しの表現。 ・「～は安いですか？」の「か」と「そうですか…」の場合のイントネーションの違いに気を付けて練習する。 ・牛肉 100 グラムの値段、の意味。絵にある「100 グラムあたり」の説明をする。 ・会話練習後、実際にちらしを見ながら、学習者が支援者に尋ねたり、感想を述べたりする（高いですね。安いですね…など）。	
知っているといいです！	P.65
ちらしのことば ・ちらしを見ながら確認。「割引」、「半額」、「特別価格」などよく使われる基本的なことばを確認。 ・できる学習者であれば、ここに挙げてある言葉以外にも紹介する。また、学習者が実際にちらしで見たり、スーパーで耳にしてわからなかった言葉などを尋ねる。 ・大垣市のスーパーが安くなる時間帯、フードシェアリングができるお店の話などに広げてよい。その他、支援者が持っているお店情報などを伝えるような活動ができるとよい。	
学習目標を確認して終了	

4 乗り物に乗る（電車・バス）



1 電車に乗る

目標

- ① 目的地への行き方を質問することができる。
- ② 電車や駅に関することばについて知る、理解する。
- ③ 目的地までの行き方や時間について理解することができる。
- ④ 駅名、行先など駅の表示を理解することができる。
- ⑤ 自分で切符を買うことができる。

トピックのイメージ作り

- ・日本で電車に乗ったことがあるか、何のために乗ったか、など経験を訪ねる。
電車に乗ったときの感想を聞く。
- ・[話せる学習者の場合]日本の電車のマナーや自国との違いについて話す。
- ・音があれば、ベルや電車のアナウンス、駅のアナウンス（「白線の内側にお下がりください」など）を聞かせる。

語彙の導入

1) 駅の名前や駅に関連のある言葉について知る

P.67

- ・P. 67 の路線図を見ながら、大垣と近郊の駅について読み方、位置を確認する。路線図の各国語バージョンがあれば持参する。
- ・駅にあるものの写真（電車の時刻表、券売機、電光掲示板、改札口の様子等）を見せながら、語彙を確認してもよい。

はなしましょう！ 1)

P.72

1) 京都まで 行きたいです。どうやって 行きますか。

- ・練習問題の他に、語彙導入時に路線図で確認した駅名などを入れて練習。
 - ・「どうやって」をP.5で確認。
- 学習者の行きたい場所を聞き、その地名を入れて練習をする。

はなしましょう！ 2)	P.72
2) 行きたいです。 「Vます形（行く→行きます）＋たいです。」 ・ P. 72 の訳で意味を確認する。 - 動詞の「ます形」についてはテキスト P. 12 を参照。問題を解いて練習。 ・ 余裕がある学習者であれば、「今、食べたい物は何ですか。」 「行きたい場所はどこですか。」など「たいです」を使った質問をする。	
はなしましょう！ 3)	P.73
3) 米原から 京都まで どのくらい かかりますか。 (電車で) 50 分ぐらいです。 ・ 「～から～まで」、「どのくらい」、「かかる」の意味を確認。 ・ 「～分」の言い方を P. 9 の時間を使って確認（P. 9 右側の「～分」の部分のみを使う）。その後、口頭で練習。 ・ 「～さんの家からスイトピアセンターまでどのくらいかかりますか」など学習者の身近なことで理解確認の質問をする。 ・ バスについても出てくるので、大垣駅周辺のバスの路線図なども用意するとよい。	
はなしましょう！ 4)	P.73
4) A：何枚ですか。 B：大人 2 枚と 子ども 1 枚です。 ・ 「～枚」について P. 3 を見て確認、練習をする。 ・ 自分の家族が切符を買う場合の、枚数を練習。 ・ 時間に余裕があれば、「枚」の付くものを他にも教え、実際の物を使って数える練習をする。	

会話のことば	P.70-72
・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。 ・「乗り物」について、ここに出てくる「電車」「バス」以外に知っている物を挙げてもらう。 ・「(場所) 行きの電車」の地名、乗り物を変えて練習してもよい。 ・「新幹線」から、そのほかの電車の種類について聞く。 ・「枚」について再度確認。1～10まで言ってもらう。 ・「片道」／「往復」 「片道〇分」、「片道〇円」から往復を導く、など意味の確認練習。 [余裕がある学習者の場合] ・駅員：「～員」 の付く他の言葉を提示し語彙を増やしても良い。 ・「～まで」：「まで」と「までに」の違い。 ・「まず」：「まず」、「それから」、「次に」で手順の説明をする ・「大人」／「子ども」：「子ども」の乗車料金について説明（学習者が利用する交通機関が具体的にわかれば、事前に料金区分を調べておく）P. 73 参照。	
会話	P.67 -69
・アントニオさんが今いる場所、これからすることについて場面の確認。 ・支援者が会話文を読む。学習者は P. 69 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。 ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。 ・長いようであれば、道を尋ねる場面と切符を買う場面に分けて、前半、後半として練習をする。 ・会話文の内容を確認する（駅員の言葉が理解できたかの確認）。 支援者：・アントニオさんはどこに行きたいですか。 ・そこまでどうやって行きますか。 ・米原から、京都までどのぐらいかかりますか。 ・他に何で行くことができますか。 ・切符売り場の会話 表現の確認 「京都までの切符」、「〇枚と〇枚」、「片道」、「往復」	

しっていると いいです！

P.73

- ・ 色々な鉄道会社について話す。
- ・ 鉄道会社の割引切符情報について、最新の情報を伝える。
- ・ こども料金など、料金について話す。(事前に調べておく)

学習目標を確認して終了

2 バスに乗る

目標

- ① 目的地と交通手段、乗り場について尋ねることができる。
- ② バスや乗車に関わる語彙を知る。理解する。
- ③ 運賃表を理解し、料金を払うことができる。

トピックのイメージ作り

- ・ P. 74 の写真を見ながら、案内所について説明。
案内所でできることについて聞く、話す。
- ・ 日本でのバスの利用経験について聞く。
- ・ 市バスだけでなく、高速バス、空港へ行くバス、
観光バスなどに広げて聞いてもよい。
- ・ 話せる学習者であれば、自国のバスについて説明してもらう。



写真提供：名阪近鉄バス

はなしましょう！ 1)

P.79

1) **市役所**に 行きたいです。ここから バスが ありますか。

- ・ 問題に出てくる語彙の確認。(大垣の施設に関するマップなどがあると良い)
- ・ 「Vます形+たいです」についてはP. 72 を参照。
- ・ 練習問題の他に、学習者の行きたい場所、大垣市、近郊の施設などを入れて練習。
- ・ 「バスがありますか」の「バス」を入れ替えて練習してもよい。

(例：電車、地下鉄、シャトルバス、高速バス)

はなしましょう！ 2)

P.79

2) このバスは 市役所へ 行きますか。

- ・ はなしましょう！ 1) 同様、問題の場所や施設について確認。
- ・ 練習問題を解いた後、乗り物と行き先を、学習者の行きたい場所に変えて練習。

はなしましょう！ 3)

P.79

3) (～を) 使うことが できますか。

- ・ P. 79 で、「辞書形+こと」ができます」の意味、作り方を確認。
- ・ 辞書形の作り方を P. 12 で確認・練習。
学習者の身近なことで理解確認の質問をする。
- ・ 練習問題を解いた後、余裕がある学習者であれば、「ここで」「ここに」の違いについても触れる。

会話のことば

P.77-79

- ・ 支援者がことばを発音し、学習者は P. 77 -79 を見て意味を確認しながら後について言う。
- ・ 「何番」「3 番」の「番」の言い方について確認。
- ・ 「170 円」から「～円」を付けて、100～1,000 の言い方を確認。(テキスト P. 7 の数字を参照する)
- ・ 乗車整理券、運賃表をテキストの写真で確認。
- ・ 「札」から、お金について確認。1,000 より大きい数の言い方について確認。
- ・ 「行き先」「日祝日」など、バスの時刻表や案内にある言葉は実物を見せながらできるとよい。

[余裕がある学習者の場合]

- ・ 「両替する」から「替える」も入れ、AをBに両替する(替える)など練習してもよい。

会話	P.74 -77
・王さんが今、いる場所についてテキストの写真を見ながら場面の確認。 ・登場人物の確認。 ・支援者が会話文を読む。学習者は P76-77 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。 ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。 ・場面を3つに分けて練習 (①案内所で尋ねる②バス乗り場でバスに乗る③バスの中～下車する場面)。 「じゃあ、乗ります。」「14番は…170円ですね。」など、「はなしましょう」 にない表現もおさえておく。 ・王さんの発話を覚え、練習をする。 ・目的地を学習者の行きたい場所に変えて、バス乗り場～下車までのやり取りをする。(運賃がわかると良い) ⇒時刻、路線図、整理券、運賃表など、実物が手に入れば用意して、使いながらやり取りできるとよい。 [余裕がある学習者の場合] ・バスで耳にするアナウンスについて話す。 ・路線図、運賃表などを見ながら近郊限定でバス旅行計画を立ててみる。	
しっていると いいです！	P.80
・「親子お出かけバスチケット」について紹介する。 ・その他、バスに関するお得な情報について触れる。(資料などあれば紹介、持参をするとよい)	
学習目標を確認して終了	

5 学校へ通う



1 学校に入れる手続きをする

目標

- ①日本の教育制度や学校生活、学習支援教室について知る。
- ②年齢の言い方を知り、伝えることができる
- ③手続きに関わる指示が理解できる。
- ④何が心配か伝えることができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 81 の絵を見ながら話す。

「どこへ行きますか。」

「あなたの国で何歳から学校へ行きますか。」など。



- ・テキスト P. 87-88 「知っているといいです！」

- ・①に「日本の教育制度」、②に「学校生活」があるので、それを見ながら学習者の国との違いについて話す。
- ・保育園・幼稚園など就学前のことについてはテキスト P. 97-102 の「4. 保育園に入れる手続きをする」を参照。

会話のことば

P.83-86

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・「子ども」「お子さん」の違いを説明（テキスト P. 17 「家族の呼び方」参照）
「私の子ども」「〇〇さんのお子さん」のように丁寧な呼び方かそうでないかの違いになる。
- ・「何歳」「7歳」⇒P. 86 「はなしましょう！ 1）」で年齢の言い方を練習する。
- ・「1年生」⇒「〇年生」の〇部分に数字を入れて学年の言い方を練習する。
- ・テキスト P. 87 「知っているといいです！」①を見て、小学校は6年生、中学校は3年生までであることを説明。

- ・ 支援者が会話文を読み、学習者は P. 82-83 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・ 以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉」を参照。
- ・ 会話文の内容を確認する。

支援者：・アントニオさんは子どもをどこへ入りたいですか。

- ・ アントニオさんのお子さんは何歳ですか。
- ・ アントニオさんのお子さんは日本で何年生ですか。（ここでは1年生となっているが、誕生月によっては2年生の可能性もある）
- ・ アントニオさんの子どもの名前は何ですか。
- ・ かれんさんの日本語は大丈夫ですか。
- ・ 漢字が心配です。どこで勉強しますか（しっているといいです！③参照）。

- ・ ロールプレイ（役割練習）

⇒担当者アントニオになって話す。

「はなしましょう！」で練習をした後は、会話文の中の子どもの年齢や学年、心配なことを入れ替えて話す練習をする。

1) A：何歳ですか。

B： 7歳 です。

- ・ 数の発音に気をつける。

「いちさい」ではなく「いっさい」、

「よさい／しさい」ではなく「よんさい」、

「はちさい」「くさい」「じゅうさい」ではなく「はっさい」「きゅうさい」「じゅっさい」である。

2) 在留カードを 見せて ください。

- ・「～て／で ください」の意味が「指示」であることを訳（テキスト P. 34）などで確認する。
- ・「～て／で」の動詞の形を「て形」という。
- ・「見せる」「書く」「言う」「押す」「する」「教える」のて形を確認する。

【て形の作り方】テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ 1 の動詞（五段活用動詞）

辞書形⇒て形 （辞書形とは、辞書に載っている形）

「～う」「～つ」「～る」⇒「～って」 例「言う」⇒「言って」

「～く」⇒「～いて」 例「書く」⇒「書いて」

「～す」⇒「～して」 例「押す」⇒「押して」

○グループ 2 の動詞（上一段・下一段活用動詞）

「～る」⇒「～て」 例「見せる」⇒「見せて」

「教える」⇒「教えて」

○グループ 3 の動詞（サ行・カ行変格活用動詞）

「する」⇒「して」

「くる」⇒「きて」

3) 漢字 が 心配です。

- ・以下のように「～は大丈夫ですか」の質問に対して「～が心配です」と答えて練習するとよい。

A：日本語は大丈夫ですか。

B：漢字／①ひらがな／②カタカナが心配です。

A：学校の授業は大丈夫ですか。

B：③日本語／④算数／⑤テストが心配です。

A：日本の生活は大丈夫ですか。

B：～が心配です。

A：仕事は大丈夫ですか。

B：～が心配です。

しっているといいです！

P.87-88

- ・①「日本の教育制度」、②「学校生活」を見ながら学習者の国との違いについて話す。
- ・③「外国人児童・生徒放課後の学習支援教室」
日本語指導の教室のひとつ。
「はなしましょう！」で、子どもがいる学習者に子どもの学習のことで心配なことがあった場合、この情報を紹介するとよい。

学習目標を確認して終了

2 学校の行事について聞く

目標

- ①わからないことについて尋ねることができる。
- ②学校の行事について話すことができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P.92 「はなしましょう！」①～③の絵を見て、「これは何ですか。」と学校行事について知っていることを聞いてみる。
⇒「はなしましょう！」
- ・学習者の母国にこの絵のような行事があるか、あるいはどんな行事があるか、尋ねてみる。

会話のことば

P.90-91

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。

会話

P.89-90

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P.89-90 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

支援者

：・誰が田中さんと話しますか。
 - ・誰がプリントをもらいましたか。
 - ・「家庭訪問」は何ですか。
- ・学習者が今までもらった書類やプリント、あるいは学習者の子どもが学校でもらったプリントでわからないものがあれば持ってきてもらう。それを使い、会話文のように話してみる。

はなしましょう！ 1)

P.92

1) A：これは 何ですか。

B：「ア」

家庭訪問

のお知らせ」です。

A:「ア」	かていほうもん	」は 何ですか。
B:「イ」	先生が 家へ 来ます。お父さん お母さんと 話します。	

- ・上記の例や①～③の行事以外にもし何かあれば取り上げ、できるだけやさしい日本語で説明する。
- ・学習者の子どもが通っている学校の年間行事予定表があれば持ってきてもらう（学校によってはホームページから行事予定表を見ることができる）。
- ・学習者の母国にはどんな行事があるか尋ねてみる。

学習目標を確認して終了

3 学校へ欠席・遅刻の電話をする

目標

- ①電話をして、名乗ることができる。
- ②事情を話し、欠席・遅刻を伝えることができる。
- ③あいさつをして、電話を終えることができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 96 の子どもが熱を出している様子の絵や病院の絵を見せる。



「子どもはどうですか。」「学校へ行きますか。」「学校へ電話しますか。」などの質問をして、トピックについて話す。

会話のことば

P.94-95

- ・支援者がことばを発音し、学習者は P. 94-95 を見て意味を確認しながら後について言う。

[学習者に余裕があれば]

- ・「1年2組」：日本に学習者の子どもがいる場合は日本での子どもの学年、クラスを確認する。また、学習者の母国ではどのようにクラスをわけなのか(学力別、午前・午後のクラスなど)、クラス名はどうか、1クラスあたり

の人数などを聞いてみてもよい。

- ・「担任」：日本では小学校と中学校とでは担任の役割が少し異なる（教える科目など）。学習者の母国ではどうか聞いてみるとよい。

会話

P.92-94

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 93-94 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を理解したかどうか確認する。

支援者：・アントニオさんは誰のお父さんですか。

- ・鈴木かれんさんは何年何組ですか。
- ・かれんさんは学校に遅れますか。どうしてですか。
- ・学校の人のはかれんさんの遅刻を誰に伝えますか。
- ・アントニオさんは何と言って、電話を切りましたか。

- ・ロールプレイ（役割練習）

⇒学校の人とアントニオになり、学校へ欠席・遅刻の電話をする。

- ・「はなしましょう！」で事情を説明する練習をした後は、会話文の内容を一部変えて話す練習をする。

はなしましょう！ 1)

P.96

1) A: けさ、かれんが けがを しました。

今から 病院へ 行きます。学校に 遅れます。

B: 遅刻 ですね。

A: はい。すみませんが、よろしくお願いします。

- ・事情を説明し、欠席・遅刻・早退を伝える。
- ・学習者の状況に合わせたやりとりにする。学校だけでなく、勤務先に電話をかける設定でもよい。

例：熱があります。今から病院へ行きます。仕事を休みます。

学習目標を確認して終了

4 保育園に入れる手続きをする

目標

①就学前の子どもの保育・教育について知る。

(保育園・幼保園・幼稚園の違い、就学前の日本語指導など)

②市役所で子どもを保育園に入れたい事情を話すことができる。

③保育園(幼保園・幼稚園)の先生と話することができる

トピックのイメージ作り

・テキスト P. 98 の絵を見ながら話す。

「けんと君です。2歳です。(隣の人は)先生です。

ここは小学校じゃありません。ここはどこですか。」

「あなたの国で子どもが2歳です。お父さんとお母さん、仕事します。子どもはどこへ行きますか。」など。

・テキスト P. 102 「知っているといいです！」

①に「保育園・幼保園・幼稚園の違い」、②に「一時保育」があるので、それを見ながらそれぞれの役割の違いを知る。もし学習者に5歳以下の子どもがいる場合は、家庭の状況からどの選択肢がいいのか考えてみる。



会話のことば

P.99-100

・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。

会話(市役所の子育て支援課で)

P.97-98

・支援者が会話文を読み、学習者は P. 97-98 の訳(ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語)を見ながら音と意味を結びつけて理解する。

・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。

・会話文の内容を理解したかどうか確認する。

支援者：・王さんは子どもをどこへ入れたいですか。

・どうしてですか。

・王さんのお子さんは今何歳ですか。

(お子さんと子どもの違いについて・・・P. 17、P. 84を参照)

- ・ ロールプレイ（役割練習）

「はなしましょう！」で事情を説明する練習をした後、市役所の担当者と王美麗になり、会話文の内容を（子どもを保育園に入れたい事情など）一部変えて話す。

はなしましょう！

P.101

1) 仕事を 探したいです。

それで、子どもを 保育園へ 入れたいです。

- ・ 子どもの保育園や幼保園への入園に関して許可される場合と許可されない場合がある。事情によっては入園ではなく一時保育になる場合もあるので、詳しくは市役所の子育て支援課で尋ねるとよい。
- ・ 学習者に就学前の子どもがいる場合は実際の状況に合わせて話す練習をする。

会話（〇〇保育園で）

P.98-99

- ・ 支援者が会話文を読み、学習者はP.99の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・ 以下、〈会話の進め方〉を参照。
- ・ 会話文の内容を理解したかどうか確認する。

支援者：・王さんは今日、けんと君のお迎えが早いですか、遅いですか。

・ どうしてですか。

・ 先生は王さんに何をお願いしましたか。どうしてですか。

- ・ 役割練習（ロールプレイ）

⇒保育園の先生と王美麗になり、会話文の内容を（お迎えが送れる理由など）一部変えて話す練習をする。

知っているといいです！

P.102

- ・ ①「保育園・幼保園・幼稚園の違い」、②「一時保育」を見ながら、それぞれの役割や子どもの年齢、保育時間について話す。また、学習者の国ではどうか聞いてみる。
- ・ ③プレスクール「きらきら教室」

就学前に日本語指導が行われる。時期や場所については、大垣市役所のまちづくり推進課に問い合わせる。

学習目標を確認して終了